

臨床研究・調査の概要

研究課題名	Open wedge 高位脛骨骨切り術における CT を用いた外側ヒンジ骨折の評価とヒンジ部遷延癒合の危険因子
研究の概要	<p>【研究の目的・意義】</p> <p>Open wedge 高位脛骨骨切り術(OWHTO)において外側ヒンジ骨折(LHF)は骨癒合遷延のリスクとなる。レントゲンによる竹内分類で評価されることが多いが、CT を用いて 3 次元的に評価したものは少ない。本研究の目的は OWHTO における LHF を CT を用い評価し CT での分類を用いてヒンジ部遷延癒合の危険因子に関して検討すること</p> <p>本研究の成果は、OWHTO における合併症である LHF の有無や型による骨癒合経過を知ることができ、その結果、術後の患者教育、病状説明や良好な術後成績につなげることができる。</p> <p>【研究対象者】</p> <p>2017 年 11 月から 2020 年 2 月の間に当院で OWHTO を施行し、術後 1,6,12 週と継時的に CT を撮影した患者</p> <p>【研究の方法】</p> <p>研究期間：承認日～2021 年 7 月 31 日</p> <p>2017 年 11 月から 2020 年 2 月の間に当院で OWHTO を施行し、術後 1,6,12 週と継時的に CT を撮影した患者を対象とし、X 線写真(膝関節正面)および CT scan で LHF の有無とその Type を評価し、前方の骨折を subtype A、後方を subtype B、前方+後方を subtype C とした。また、遷延癒合群と非遷延癒合群との間で Student の t 検定および Pearson の χ^2 乗検定を行った。有意水準 5% 以下として有意差を得られたものに対しロジスティック回帰分析を施行した。</p> <p>本研究は、通常診療の範囲内で得られたデータを用いて実施する観察研究であるため、研究参加による特別な被験者の不利益はない。</p>
研究資料の入手・閲覧	<p>研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。</p> <p>研究資料の入手・閲覧を希望される方は、次へご連絡ください</p> <p>富山市民病院 診療科:整形外科 役職:医師 氏名:金山智之</p> <p>TEL 076-422-1112(代表)</p> <p>FAX 076-422-1371</p> <p>e-mail jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp</p>
個人情報の開示に係る手続	富山市個人情報保護条例に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。
相談等への対応	研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。